

【87 例目】兵庫県（南あわじ市）における豚熱の患畜確認農場の現地調査概要

令和 5 年 7 月 23 日の拡大疫学豚熱調査チームによる現地調査の概要は以下のとおり。

（１）農場の概況

- ① 当該農場は、平野部に位置する一貫農場であり、農場裏手には竹林が生い茂っており、周辺には人家や田畑が存在した。
- ② 令和 4 年 10 月に、当該農場から約 11 km離れた地点で野生イノシシの豚熱陽性事例が確認されていたが、その後、淡路島内では、野生イノシシの陽性事例は確認されていなかった。
- ③ 当該農場は、種豚舎 1 棟、分娩舎 1 棟、種豚・分娩舎 1 棟、離乳舎 1 棟、肥育舎 3 棟の計 7 豚舎（いずれも開放豚舎）からなり、発生は分娩舎で確認された。なお、分娩舎は種豚・分娩舎と内部で繋がっていた。また、衛生管理区域内ではヤギが飼養されていた。

（２）飼養衛生管理関係

- ① 農場主によると、飼養管理は従業員 7 名で行っており、畜舎ごとに担当は分けられていないとのこと。
- ② 農場入口には動力噴霧器は設置されていないが、農場主によると、外部車両が出入りする際は、従業員が手動の噴霧消毒器を携行し、農場入口で車両消毒を実施していたとのこと。
- ③ 農場主によると、従業員等が衛生管理区域に入場する際は、農場入口付近の小屋で農場専用の長靴・衣服を着用し、手指消毒を実施していたとのこと。また、豚舎に出入りする際は、各豚舎専用の長靴に履き替えるが、更衣及び手指消毒は実施していなかったとのこと。
- ④ 農場境界及び豚舎入口に消石灰を散布しており、従業員が各豚舎に出入りする際は、石灰帯を通過していたとのこと。調査時、農場入口と発生豚舎に通じる豚舎の入口のみ、踏込消毒槽の設置を確認した。
- ⑤ 農場主によると、発生豚舎（分娩舎）と種豚・分娩舎間を豚が移動する際は、豚舎間を繋ぐ通路を使用し豚を歩行させていたが、通路入口に消石灰を散布するものの、通路の消毒は行っていないとのこと。また、離乳舎から肥育舎への豚舎間移動の際は敷地内道路を歩かせて移動していたとのこと。その際も、道路脇沿いに消石灰を散布するが、道路全体への散布は行わないとのこと。
- ⑥ 豚舎には防鳥ネットが設置されていたが、網目の大きさは 15cm 以上あり、小型野生動物が容易に侵入可能な状況であった。
- ⑦ 豚舎ごとのオールイン・オールアウトは行っていないとのこと。
- ⑧ 農場主によると、種豚の直近の導入は約 1 年半前とのこと。
- ⑨ 飼養豚への給水は水道水、畜舎内の清掃・消毒には井戸水を使用していたとのこと。
- ⑩ 飼料は淡路島内から仕入れており、飼料搬入業者が衛生管理区域に搬入する際は、

農場専用作業着と長靴を着用して来場し、入口門扉に設置した消毒薬で手指消毒の上、衛生管理区域内の飼料タンクに搬入していたとのこと。なお、飼料運搬車の車両消毒は、従業員が手動の噴霧消毒器で実施していたとのこと。

- ⑪ 従業員が給餌する際は、飼料を台車で運搬しながら、手給餌していたとのこと。
- ⑫ 肉豚の出荷は、本年5月末までは外部業者に依頼していたが、それ以降は当該農場の従業員が行っていたとのこと。直近の出荷は7月18日であった。
- ⑬ 死亡豚は、農場内の冷凍庫に2～3週間程度保存した後、従業員が5km程度離れた同農場の本社内の冷凍庫に移し、レンダリング業者がまとめて回収していたとのこと。
- ⑭ 敷料にはもみ殻を使用しており、稲刈り時期（9～10月頃）に1年分をまとめて購入して農場内に保管し、3日に1回程度、豚舎に撒いていたとのこと。
- ⑮ 糞尿は固液分離され、糞は農場内の堆肥施設で堆肥化し、汚水は浄化槽で処理していた。堆肥は、回収業者によって月2回程度搬出されており、直近の搬出は7月20日であった。

（３）野生動物関連

- ① 農場の門は複数あるが、出入口は1か所に限定しており、他の門は常時閉鎖されているとのこと。また、衛生管理区域の周囲は高さ約1mのワイヤーメッシュ柵で囲われていたが、柵の一部に破損があり、一部は藪に埋まっていて全体を確認することはできなかった。
- ② 飼養管理者によると、農場周辺でシカは見かけるとともに、衛生管理区域内でネコやイタチを見かけることはあるが、農場付近で野生イノシシを確認したことはないとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、豚舎内でネズミを時折見かけることがあり、殺鼠剤を使用しているとのこと。

（４）臨床症状の経過

- ① 当該農場では、家畜保健衛生所職員が月2～3回程度来場し、50～60日齢の豚を対象に豚熱ワクチンを接種していた。この際、発育が良くない個体は、接種を次回に回していたとのこと。
- ② 6月中旬から、奇形の豚を中心に哺乳豚の死亡が散見されたが、近親交配の影響を疑っていたとのこと。また、7月上旬以降、元気消失、食欲減退を呈する哺乳豚が散見されたが、餌の切り替え時期であったことや、暑熱による影響と考え、豚熱は疑わなかったとのこと。その後、7月11日の豚熱ワクチン接種時にも豚熱を疑う所見は認めなかったが、以降も2～3頭/日の死亡が継続したため、7月20日に家畜保健衛生所に病性鑑定を依頼し、7月21日に豚熱陽性が確認された。
- ③ 調査時、発生豚舎の哺乳豚と離乳豚は殺処分済みであったが、母豚には特段の異状は認められなかった。また、他の豚舎についても異状は認められなかった。

（以上）